



## P-style

P-styleの概要から、パーススタジオで作成した画像に対して人物や樹木などの添景を配置したり、手描き風パースへ変換する操作について解説します。

1. P-styleの概要	1
1-1 P-style連携の基本的な流れ	1
1-2 他プログラムとの連携	2
1-3 P-styleの機能	3
1-4 P-styleの注意点	4
2. 手描き風パースの作成	5
2-1 P-styleに連携	5
2-2 画面まわりの機能	6
2-3 添景の配置	7
2-4 画像の加工	10
2-5 画像の保存・印刷	13

# 1

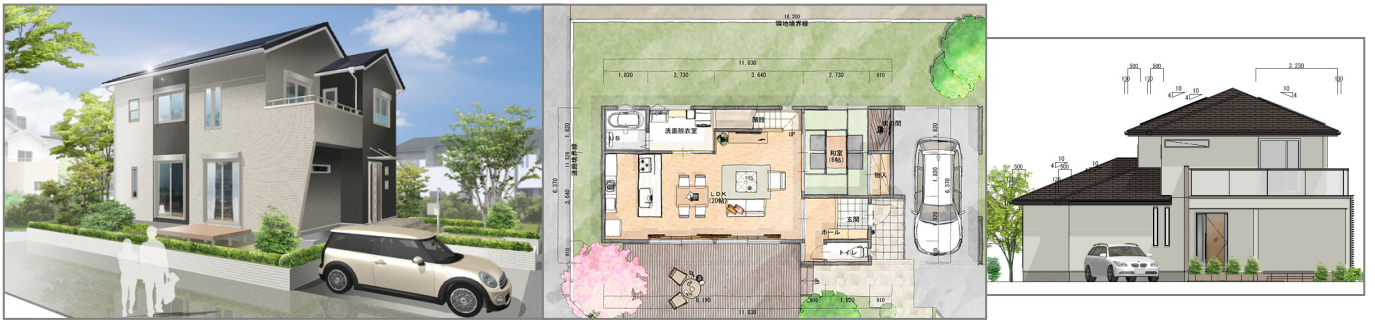
## P-style の概要

正式なプログラム名は「パーススタジオ“P-style”」で、パーススタジオとセットの商品構成です。

P-styleは、ZERO（パーススタジオ、パースモニタ、平面図、立面図）やGLOOBEと連携して、プレゼン効果の高い画像を作成するシステムです。

ZERO・GLOOBEからの専用連携（3Dレタッチ）を行うことで、通常の画像編集ソフトと違い、建物の立体を考慮した編集が可能となっています。また、通常の画像データの編集（2Dレタッチ）も可能です（一部機能制限有り）。

なお、ZEROなどの一般的なFCアプリと違い、重複起動が可能となっています。



### 1-1 P-style連携の基本的な流れ

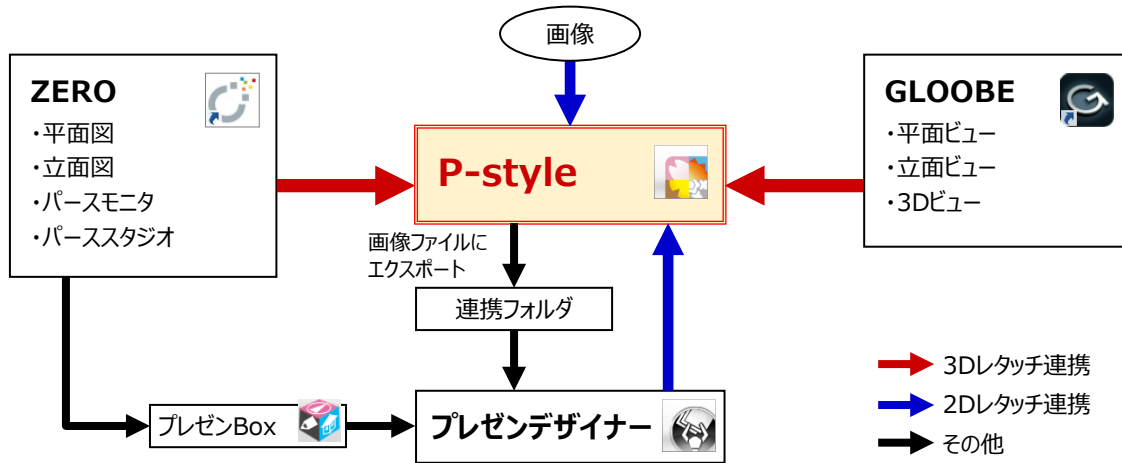


## 1-2 他プログラムとの連携

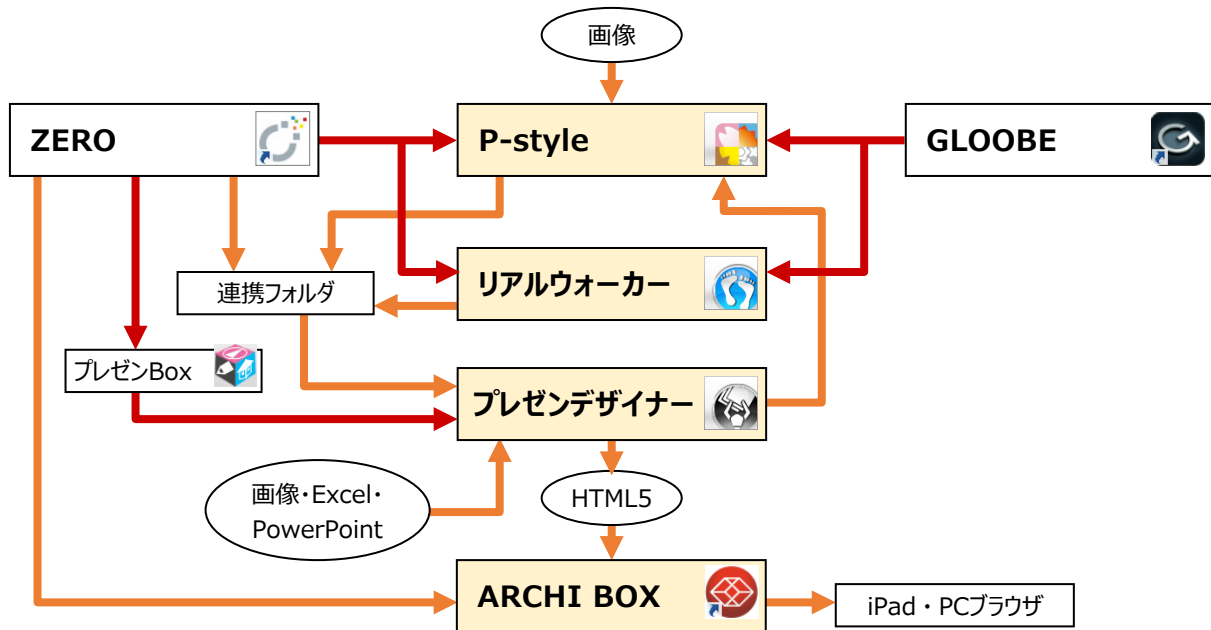
P-style連携には、3Dレタッチ連携と2Dレタッチ連携があります。

3Dレタッチ連携は、ZEROまたはGLOBEから連携して、添景を配置したり、レタッチ効果を加えることができます。

2Dレタッチ連携は、写真や画像などの2Dデータに対してレタッチ効果を加えることができます。



### ■ 参考：プレゼン系プログラムの連携フロー



## 1-3 P-styleの機能

### 添景の配置

3D レタッチ連携時は、人物や樹木などの添景を配置できます。

パース・立面では「植栽」「遠景」「人物・動物」「テキスト」の4種類、平面では「植栽」「テキスト」の2種類です。

入力位置によって自動的に添景の大きさが調整され、遮るものがある場合でもその位置にうまく配置できるようになっているため、簡単に添景を配置できます。

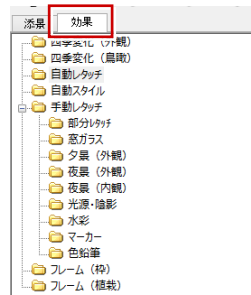
⇒ 添景の一覧は、ヘルプの操作ガイド「付録6」を参照



### 効果（画像処理）

ワンクリックで季節を変化させたり、手描き風に加工できます。また、陰影やぼかしなどのレタッチ加工も可能です。

⇒ 効果の一覧は、ヘルプの操作ガイド「付録7」を参照



#### ■ 四季変化

春夏秋冬の季節変化をワンクリックで再現できます。四季変化に対応した添景は、季節に合わせて変化します。



#### ■ 自動レタッチ

味わいのある手描き風の画像にワンクリックで変換できます。

手描き風の平面図・立面図もワンクリックで作成でき、親しみのある図面提案が行えます。



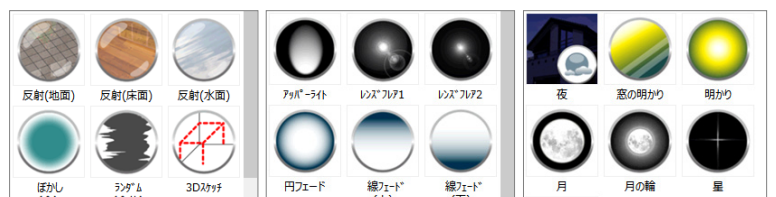
#### ■ 自動スタイル

部屋の雰囲気や伝えたいイメージに合わせて、ワンタッチで「暖色系」「寒色系」にイメージを変更できます。



#### ■ 手動レタッチ

手動による手描き風の加工、照明や陰影の表現追加、反射や明るさの調整など、個別に効果を加えます。昼の外観パースから夕景・夜景を作成することもできます。



#### ■ フレーム

デザインフレームと植栽のフレームがあります。



## 1-4 P-styleの注意点

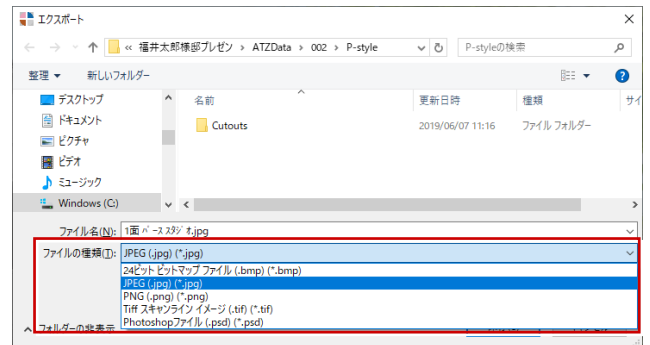
### データ形式

P-style は専用のデータ形式 (.epx) です。  
epx 形式のファイルは P-style でしか開けません。

一般的な画像データとして使用するには、「ファイル」メニューの「エクスポート」で画像ファイルにエクスポートする必要があります。

【保存できる画像の種類】

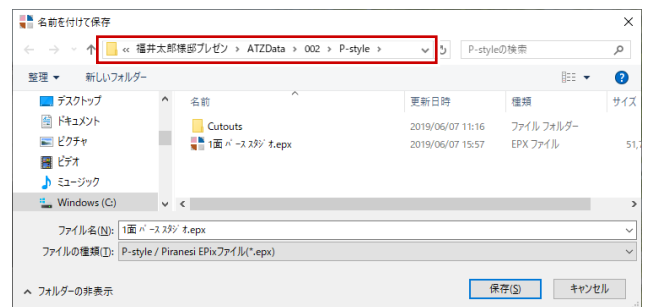
- ・ 24ビット ビットマップファイル (\*.bmp)
- ・ JPEG (\*.jpg)
- ・ PNG (\*.png)
- ・ Tiff スキャンラインイメージ (\*.tif)
- ・ Photoshop ファイル (\*.psd)



### データの保存先

P-style 連携データは、ZEROの物件フォルダ (001, 002..) に作成される「P-style」フォルダに保存されます。

「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」や「エクスポート」で初期値として表示されるフォルダも同じです。



### 連携データの構成

P-style 連携データは、複数のファイルで構成されます。

また、平面図・立面図から連携した場合と、パースモニタ・パーススタジオから連携した場合は、構成が異なります。

#### ■ 平面図・立面図から連携した場合

例：1階 平面図\_files (フォルダ) / 1階 平面図.dxf / 1階 平面図.epx / 1階 平面図.pcf

#### ■ パースモニタ・パーススタジオから連携した場合

例：パースモニタ.bmp / パースモニタ.epx / パースモニタ.lit / パースモニタ.pcf

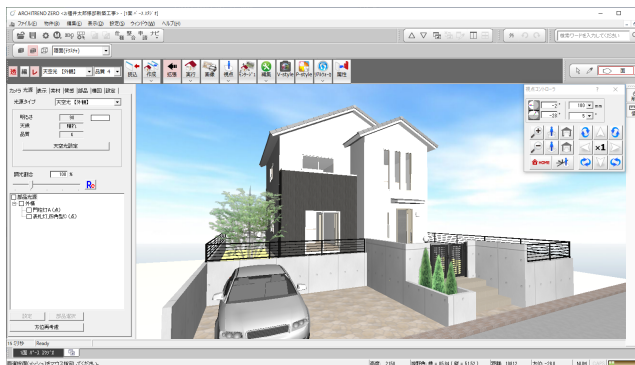
# 2

## 手描き風パースの作成

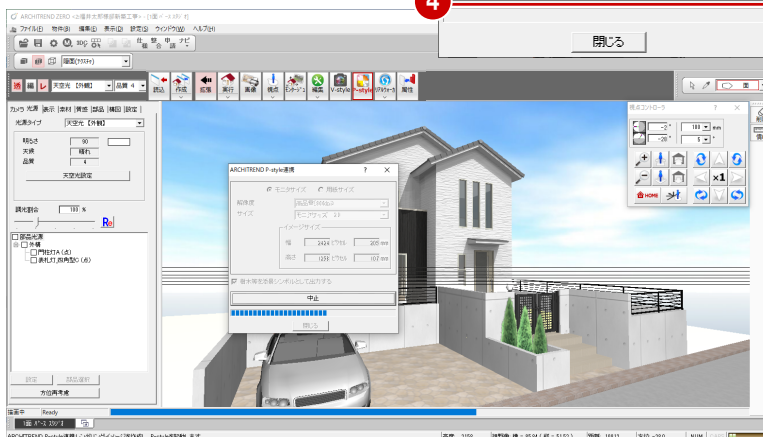
パーススタジオで作成した外観パースに、人物などの添景を配置して、手描き風パースを作成してみましょう。

### 2-1 P-styleに連携

外観パースを作成したパーススタジオの面を開いて、P-style に連携しましょう。



- ① 「ARCHITREND P-style 連携」をクリックします。
- ② 作成する画像の解像度とサイズを設定します。  
ここでは、次のように設定します。  
「モニタサイズ」：ON  
「解像度」：高品質（300dpi）  
「サイズ」：モニタサイズ×2.0
- ③ 「樹木等を添景シンボルとして出力する」が ON になっていることを確認します。
- ④ 「ARCHITREND P-style 連携」をクリックします。  
レンダリングが開始され、終了すると P-style が起動します。



#### 樹木等を添景シンボルとして出力する

ONにして連携した場合、樹木などは添景データに置き換わり、編集可能です。  
OFFの場合、樹木などは出力されません。



## 2-2 画面まわりの機能

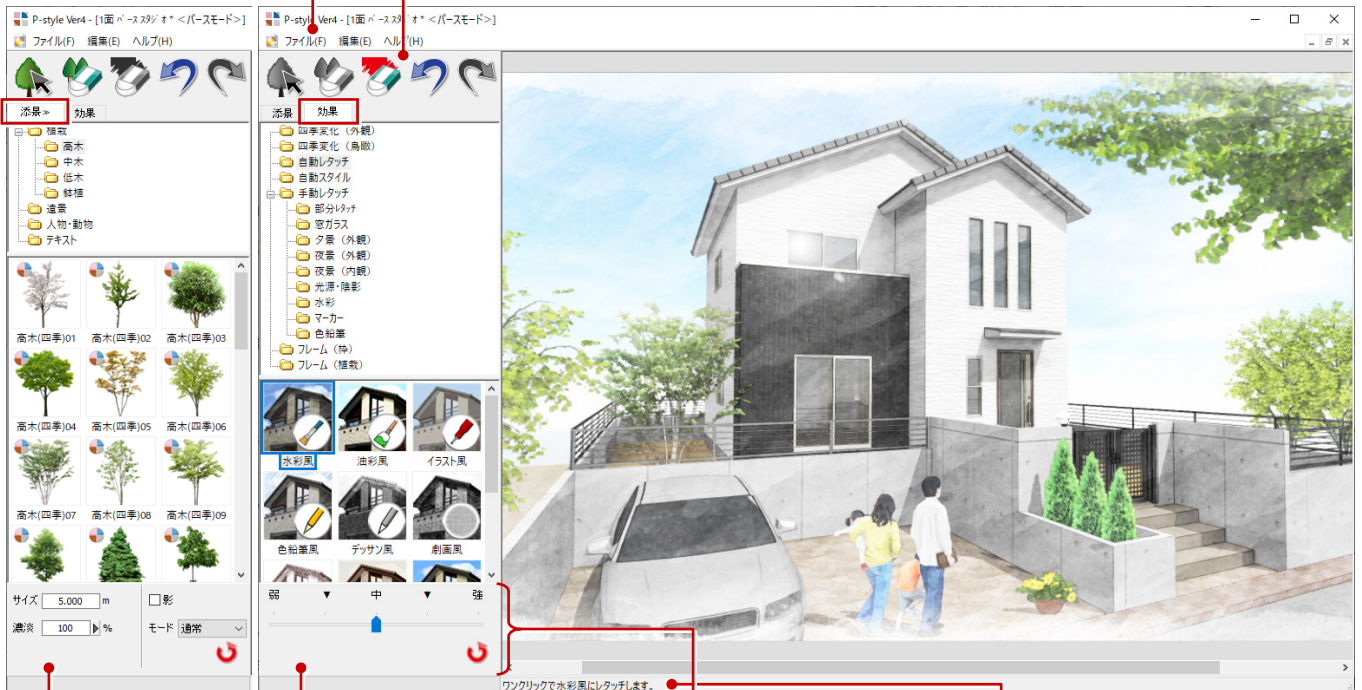
P-styleの各部の名称や機能について確認しましょう。

### プルダウンメニュー

いろいろな機能が目的別にまとめられています。

### ツールバー

よく使うコマンドをアイコンで表示しています。



### 「添景」タブ

添景がフォルダごとに収録されています。

### 「効果」タブ

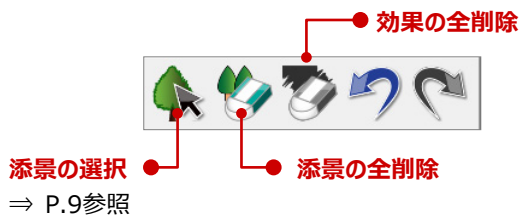
季節・レタッチなどのスタイルがフォルダごとに収録されています。

### 設定パネル

選択した添景やスタイルに応じて内容が変わります。

### メッセージバー

選択した添景やスタイルの説明が表示されます。



### 画面の拡大・縮小について

マウスの両ボタンドラッグやマウスホイールによる画面操作が使用できます。

また、「+」キーで拡大、「-」キーで縮小になります。

### P-style のモードについて

#### ■ パースモード／平面モード／立面モード

パーススタジオ、パースモニタから連携した場合は、パースモードとして起動します。

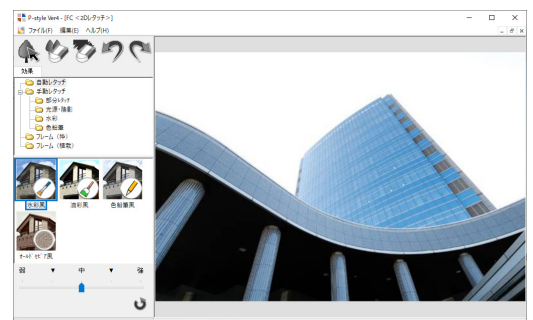
平面図から連携した場合は平面モード、立面図から連携した場合は立面モードになります。

モードによって、それぞれ使用できる添景や効果が異なります。

#### ■ 2Dレタッチモード

写真や画像などの2Dデータを開いた場合、またはARCHITREND プレゼンデザイナーで画像や縮尺画像を選択して「P-style」グループの「連携」を実行した場合は、2Dレタッチモードとして起動します。

写真や画像に対してレタッチ効果をかけることができます。





## 2-3 添景の配置


人物や樹木などの添景を配置しましょう。



### 人物を配置する

- 1 「添景」タブのツリーから「人物・動物」をクリックします。
- 2 一覧から「家族（四季）」を選びます。
- 3 「影」を ON にします。
- 4 配置する位置をクリックします。  
添景が配置され、影も描画されます。

### 四季変化する添景について

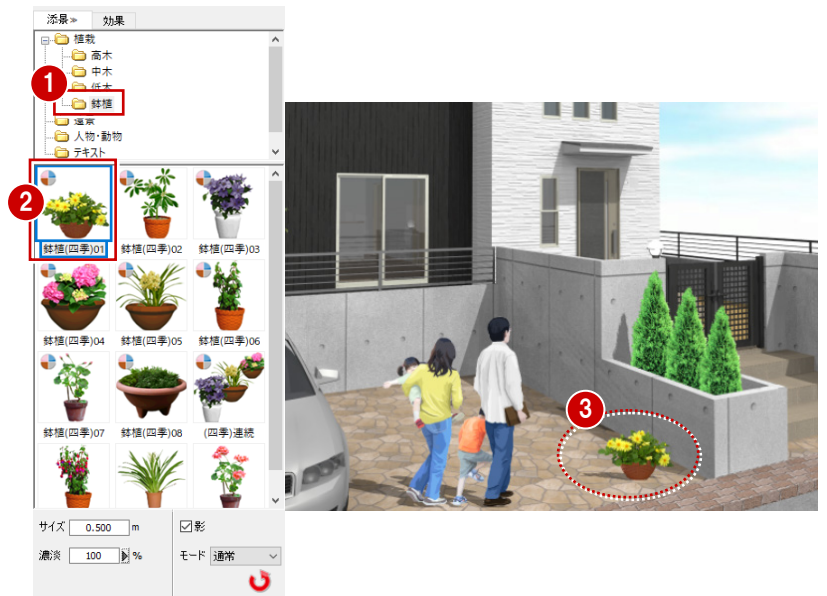
一覧で  のマークがついている添景は、「効果」タブの四季変化を行った場合、季節ごとに変化します。



パーススタジオで設定した太陽光の向きを考慮して影が描画されます。

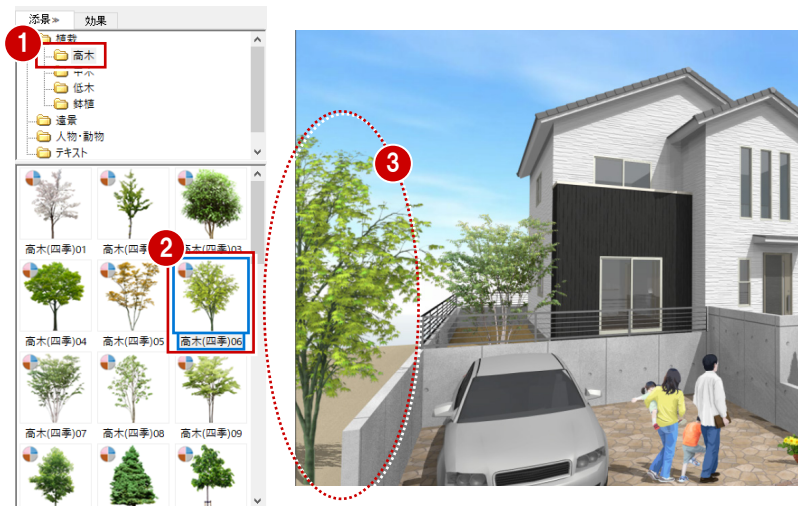
### 鉢植を配置する

- 1 ツリーから「植栽」の「鉢植」をクリックします。
- 2 一覧から「鉢植（四季）01」を選びます。
- 3 同様に、右図の位置に配置します。



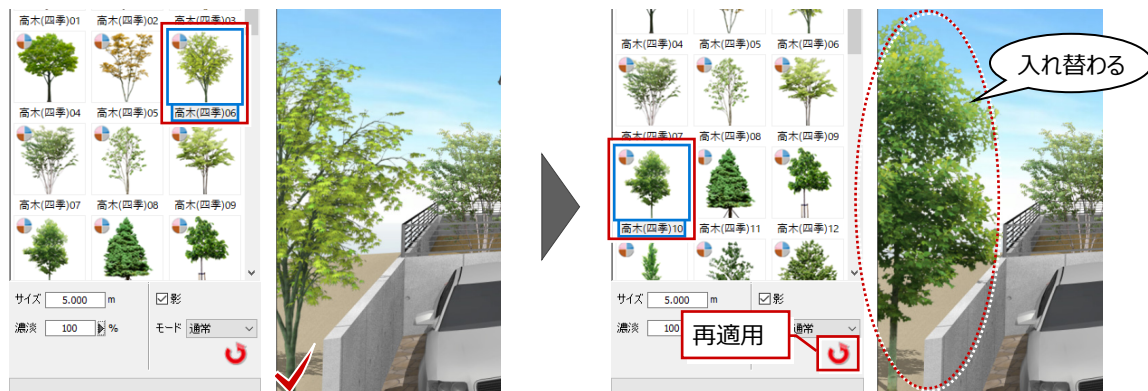
## 樹木を配置する

- ① ツリーから「植栽」の「高木」をクリックします。
- ② 一覧から「高木（四季）06」を選びます。
- ③ 同様に、右図の位置に配置します。



## 「再適用」について

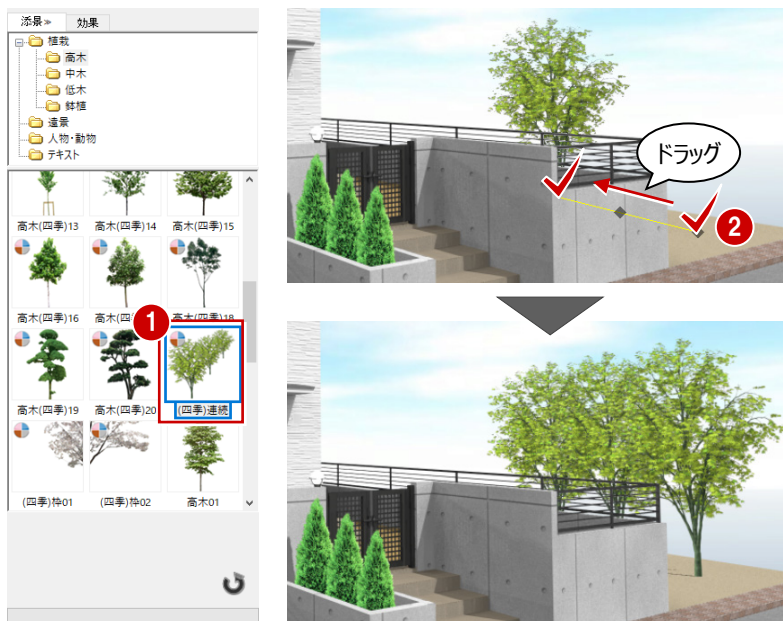
🔄 「再適用」は、前回の処理を元に戻して、現在の処理を実行するものです。添景を配置した直後に、一覧から他の添景を選んで「再適用」をクリックすると、添景を入れ替えることができます。



## 樹木を連続で配置する


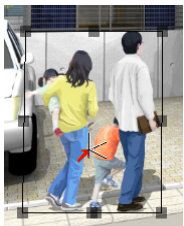







名称に「連続」とついている添景は、複数の添景を一度に配置できます。

- ① 一覧から「（四季）連続」を選びます。
- ② 配置する位置でマウスのボタンを押し、そのままドラッグします。  
2点間に等間隔で3つの添景が配置されます。



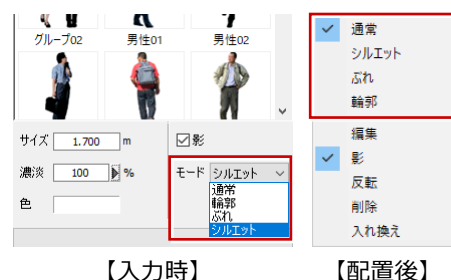
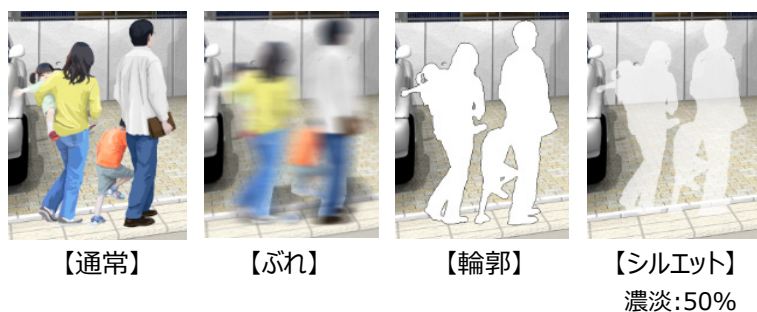
### 添景を編集するには

「添景を選択」をクリックして、配置済みの添景上にマウスカーソルを置いて右クリックすると、添景の移動やサイズ調整、反転などの編集を行うことができます。

編集		影
<p>カーソルが  の状態でドラッグすると移動します。</p> 	<p>カーソルが  の状態でハンドルをドラッグするとサイズ調整できます。</p> 	<p>影のON/OFFを切り替えます。</p> <p>【ON】 </p> <p>【OFF】 </p>
<p>※ 「添景を選択」をクリックして、添景上で左クリックしても、編集の状態になります。</p>		
反転	削除	入れ替え
<p>添景を反転します。</p> 	<p>添景を削除します。</p> 	<p>一覧で選択している添景に入れ替えます。</p>  <p>※ 先に一覧で添景を選んでから操作します。</p>



また、添景には4つのモードがあり、入力時や配置後の右クリックメニューで変更できます。



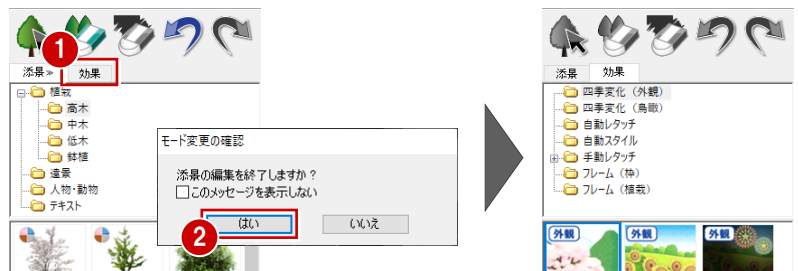
## 2-4 画像の加工

画像に陰影をつけたり、手描き風に変換してみましょう。P-styleは、簡単にさまざまな情景に変換することができます。



### メニューを切り替える

- 1 「効果」タブをクリックします。
- 2 確認画面で「はい」をクリックします。



### フレーム（植栽）を配置する

パースの周りを飾る樹木フレームを配置してみましょう。

- 1 ツリーから「フレーム（植栽）」をクリックします。
- 2 一覧から「グリーン横 08」を選びます。
- 3 画面上をクリックします。  
画像に樹木フレームが付加されます。



他の効果も確認したい場合は、一覧から他のスタイルを選んで「再適用」をクリックします。

## 全体的にコントラストを上げる

- 1 ツリーから「手動レタッチ」の「光源・陰影」をクリックします。
- 2 一覧から「深みアップ」を選びます。
- 3 ここでは、「濃淡」を「50」%に変更します。
- 4 画面上をクリックします。  
画像全体の明度とコントラストが上がります。

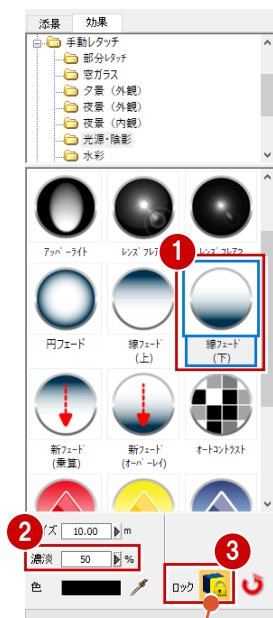


面の向きを自動判断して、効果をつける範囲の枠が表示されます。

## 陰影の濃淡を強める

ポーチ階段の影の濃淡を強めてみましょう。

- 1 一覧から「線フェード（下）」を選びます。
- 2 ここでは、「濃淡」を「50」%に変更します。
- 3 「ロック」が ON になっていることを確認します。
- 4 階段の蹴上部分を順にクリックします。  
指定した面の陰影が強くなります。

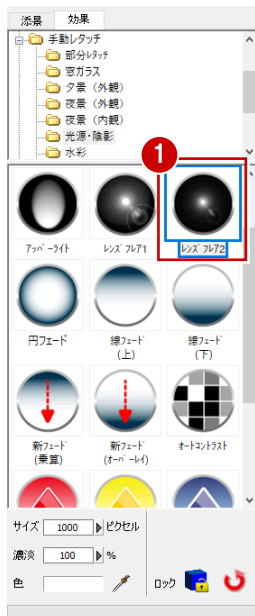


「ロック」がONのときは、同じ奥行きで同じ向きの面のみが対象になります。

## レンズフレアをつける

2階の窓ガラスにレンズフレアを表現しましょう。

- 1 一覧から「レンズフレア 2」を選びます。
- 2 2階の窓ガラスをクリックします。  
太陽光が反射しているような効果をつけられます。



## 自動レタッチを実行する

- ① ツリーから「自動レタッチ」をクリックします。
- ② 一覧からお好きなスタイル（ここでは「水彩風」）を選びます。
- ③ 画面上をクリックします。  
選択したスタイルの手描き処理が行われます。
- ④⑤ 他のタッチを試す場合は、一覧から選んで「再適用」をクリックします。



## フレーム（枠）をつける

- ① ツリーから「フレーム（枠）」をクリックします。
- ② 一覧からお好きなスタイル（ここでは「水彩」）を選びます。
- ③ 画面上をクリックします。  
画像にフレームが付加されます。



他にも様々なタッチがありますので、お好きなスタイルをお試しください。



【色鉛筆風】



【油彩風+筆（エッジ）】



【コンテ風】



【鉛筆画風+ライン】

## 2-5 画像の保存・印刷

P-styleデータと、作成した画像を保存し、画像を印刷しましょう。

### P-style データを保存する

- 1 「ファイル」メニューから「上書き保存」または「名前を付けて保存」を選びます。

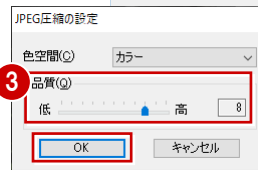
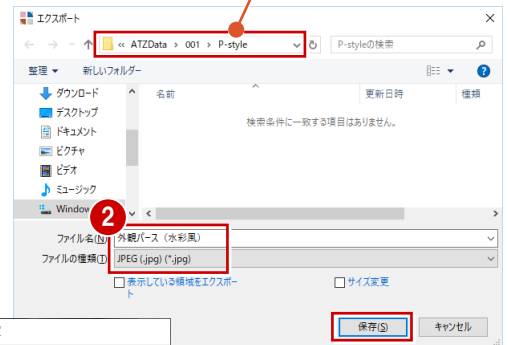


保存先の初期値は、ZEROの物件フォルダに作成される「P-style」フォルダです。

### 画像を保存する

ここでは、JPEG ファイルに保存しましょう。

- 1 「ファイル」メニューから「エクスポート」を選びます。
- 2 保存先やファイル名、ファイルの種類を指定して、「保存」をクリックします。
- 3 「JPEG」を選択した場合は、品質を設定して、「OK」をクリックします。

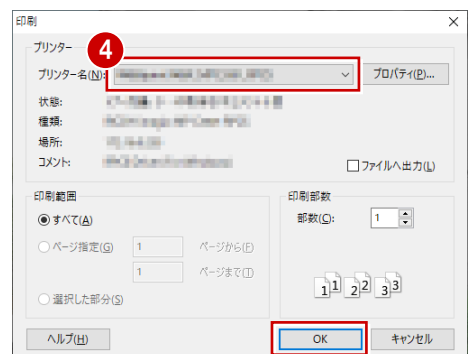


### 画像を印刷する

- 1 「ファイル」メニューから「ページ設定」を選びます。
- 2 用紙のサイズや向き、余白などを確認します。ここでは、「A4」「横」に設定して、「OK」をクリックします。



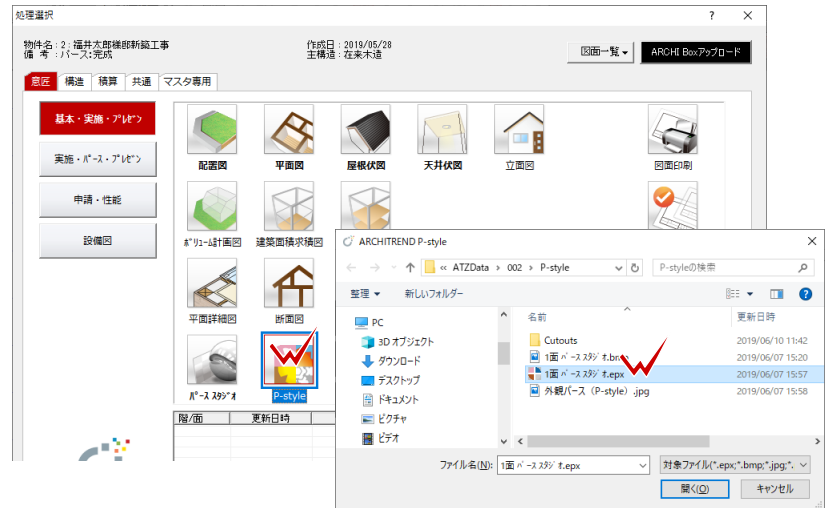
- 3 「ファイル」メニューから「印刷」を選びます。
- 4 使用するプリンタを確認して、「OK」をクリックすると、印刷が開始します。



## 次回、データを開くときは

「処理選択」ダイアログの「P-style」をダブルクリックして開きます。

このとき、その物件データの「P-style」フォルダが開くので、保存したデータ（.epx）を選びます。



## 補足

### 画像を加工後、添景を編集したい場合

「効果」タブで画像を加工後でも、「添景」タブに切り替えて添景の編集を行うことができます。

「添景」タブでは効果処理がリセットされて見えますが、「効果」タブに戻ると、「添景」タブに移る直前までの効果が自動的に適用されます。

